



ふじ市の製紙

① みつまたと和紙づくり

世界ではじめて製紙法を完成したのは中国のさいりんという人です。さいりんの紙は、木の皮や麻、ぼろきれが原料でした。紙の作り方が日本に伝わってきたのは、すいこ天皇のころ(610年)だと、日本書紀という本に書かれています。

みんなは、みつまたを知っていますか。枝が3本ずつにわかれている皮は和紙の原料になる木です。

みつまたは、富士山のふもとにも自然にはえていましたから、戦国時代の終りごろ、するが、伊豆、甲斐(今の山梨県)の方面でだんだん使われるようになりました。これが、

するが半紙、のはじめですが、では富士市の製紙は、いつごろからどのようにして発達したのでしょうか。

明治になると、今までにぎやかだった吉原宿は、宿場としての役目がなくなってしまいました。ですから宿場の仕事をして生活していた人達は、なにかほかの仕事をみつけなければなりません。

そこで、野村一郎、影山秀樹、内田平四郎さんらが、かいこをかったり、くわ、お茶、みつまたの栽培をすすめました。そして、みつまたの栽培にあわせて、するが半紙の



- ①「けた」を両手にもって原料液をすくい上げます。
- ②前後左右にゆり動かして水をこしながら適当な厚さに紙をすきます。
- ③しき板の上に1枚ずつ積みかさねていきます。

伝統をいかした和紙づくりもさかんになっていきました。



ぼくらがほった さつまいも

こんな大きなさつまいも、ぼくらがほったんだぜ。

原田の石原さんちのおじいちゃんが、さつまいもをほらせてくれたんだ。つるを切って、うねの横がわからほってくと、大きなさつまいもがゴロゴロ……。

さつまいもほりってはじめて。

がんばれ!!少年野球クラブ「富士リトルリーグ」

少年野球クラブ富士リトルリーグは、うどう南関東ブロック大会を勝ちぬいまだできたばかりのチーム。でも、どて関東連盟の秋季大会に出場します。



うるしにかぶれたら

-11-

紅葉がはじまると、ハイキングのシーズンです。山にあるうるしは、真赤くきれいに紅葉しますが、うるしにさわるとかぶれます。

石けん水でよく洗い、きれいな水で洗い流します。このとき、汚れた水がほかのヒフにつかないよう注意してください。かゆくなったら、医者の手当を受けましょう。